

『甚南小なかよしプロジェクト事業』

あま市立甚目寺南小学校

1 目的

本校では、学校教育目標のもと、「人権教育を柱として、人と人とのかかわりを大切にしながら生き生きと活動できる南っ子を育成する」ことを学校経営方針として掲げている。

本推進事業は、豊かな心を育成することを目的に、「甚南小なかよしプロジェクト」と位置づけて、以下の点について取り組んだ。

- 望ましい人間関係を基盤にした学級・学年づくり
- 自己肯定感・自己有用感を高める活動の充実
- 読書活動の充実

全校児童 807 名の大規模校の中で、多くの人との関わりを通して豊かな心を醸成し、縦（異学年）のつながり、横（学級・学年）のつながりを深める取組を実践する。学級経営を基盤とし、体験活動や道徳教育の推進を通して、自分や周りの人を大切にする児童の心の育成を図るとともに、自らを律することができる児童の育成を目指している。

2 内容

- (1) 望ましい人間関係を構築するために、Q-U テストを実施し、児童の実態把握や適切な支援に努めたり、温かい言葉や会話のスキル習得を図ったりする。
- (2) 自分と向き合う活動を通して、自分をかけがえのないものとして実感し、他者もそのような存在として認め合う感情を育む。

3 評価

(1) 望ましい人間関係を基盤にした学級・学年づくりのために

本校では、年間 2 回の Q-U テストを活用して、継続的に児童把握に努めている。Q-U テストの結果をもとに、名城大学非常勤講師の杉村秀充先生を迎え、Q-U テストの見方や分析結果、児童の変容を学級経営に生かす方法についての研修を行い、学級・学年づくりに役立てることができた。

(2) 自分と向き合い、自分をかけがえのないものとして実感するために

6 年生では一般社団法人志乃書画協会 代表理事の西尾志乃舞先生を講師として招き、こころの書に取り組んだ。その学習では、自分と向き合い、「感謝の言葉」と「大切な言葉」を色紙に書き記した。そのような活動や作品の交流活動を通して、自分をかけがえのないものとして実感し、他者もそのような存在として認め合う感情を育むことができた。



4 課題

本校が異学年交流などに取り組んで 10 年以上が経過し、良い形で定着し、下級生は成長するにつれて、「次は自分たちがリーダーになる番だ」と、期待と自覚を高めている。今後は、異学年交流活動について教員が意見交換などを行い、見直し、検討を行うことでより良いものを作り上げていきたい。

『授業力向上事業』

あま市立甚目寺南小学校

1 目的

本校では、学校教育目標のもと、「教師自らが力量向上を目指し、授業研究を通して指導技術や学習効果の向上をはかる」ことを重点努力目標の中に掲げている。

本推進事業は、職員の力量向上として平成29年度から継続して実施している。令和2年度は、本年度より全面実施された学習指導要領で重点化されている小学校プログラミング教育に焦点をあて、教員の授業力向上や環境整備を進めていきたい。

2 内容

(1) 令和2年度は教科書でプログラミング教育の実践が取り扱われている5年生算数、6年生理科の授業では、コンピュータ等を利用したプログラミング教育の授業の進め方について研修を深める。

(2) プログラミング教育の環境整備として、教材の準備等を進める。

3 評価

情報アドバイザーの塚本まゆ先生を講師としてお招きし、5年生算数では「スクラッチを利用して正多角形を作図するプログラムの作成」、6年生理科では「電気をより効率的に使うプログラムの作成」の授業づくりを進めた。6年生理科の授業では、PTAで購入していただいたロボット20台を活用し、「暗い中で動く物を感じたら電気を付ける」などのプログラムを作る子どもたちの姿が見られた。

これらの授業を参観したり、ロボットやプログラミングソフトを体験したりすることで、職員にプログラミング教育にかかわる見識を深めることができた。



プログラミングに取り組む子



購入したロボット

4 課題

今年度、5・6年生のプログラミング授業については、外部講師の先生をお招きし、実際に授業を行っていただいたり、職員が授業を進めていく上でアドバイスをいただいたりすることで子どもたちにプログラミング的思考を育むことができた。また、ロボットの購入といった環境整備を進めることができた。

来年度は、プログラミング教育の年間計画（全学年）を作成し、授業実践や研修をより一層進めていくことで職員の授業力向上に取り組んでいきたい。環境整備については来年度実施予定の一人1台タブレットをプログラミング教育でも有効活用できるように準備を進めていきたい。